



今から 35 年前まで、狛江第一小学校（一小）は狛江駅前がありました。
まだ小田急線が高架化する前のこと。
多くの子どもたちが、線路を越えて登校していました。
朝夕のラッシュ時、駅前は多くの人でごった返し。
電車の増発でなかなか踏切が開かないのです。
線路を跨いで駅の向こう、校門は目の前、なのに…。
こんなもどかしい想い、記憶に残っていませんか。

一小 セピア色の記憶

2004 思い出を刻む

明治 5 年（1872）、泉龍寺のお堂を仮校舎にして始まった狛江の教育。
学び舎の名は観聚学舎かんしゅうがくしゃ。一小の前身になります。

かつて一小があったのは狛江駅前。

ここに観聚学舎の流れを汲む小学校ができたのは明治 14 年（1881）のこと。

村唯一の小学校であった狛江尋常高等小学校から戦時中の狛江国民学校、

そして、戦後の狛江小学校から一小へ。

狛江の教育はこの地で歴史を刻んできました。

一小移転後、小田急線の高架化とともに駅北口の再開発が進みます。

ロータリーにエコルマホール、一小跡地は大きく様変わりしました。

一小の名残はロータリーの交通島に佇む石碑のみ。

そんな駅北口に小学校の記憶を残したい。

平成 16 年（2004）に建てられた交番横の記念碑。

狛江の教育の始まりと小学校の記憶を今に伝えています。



狛江教育発祥之地の記念碑



大正時代に建てられた門柱
移転前は体育館脇にあった

受け継ぐ歴史

学校の移転に伴い校舎は新しく
なりましたが、古くから伝わる
門柱は移設され、現在も学校北側
の門柱として使用されています。



現在の門柱